

# 第2次庄内町花き振興計画

～ 品質世界一の花づくり ～

令和2年3月策定

山形県庄内町



## は じ め に

「第2次庄内町花き振興計画」の策定にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

庄内町が誕生して14年が経過し、平成19年度に策定した「庄内町花き振興計画」のもと、品質世界一の花づくりに向け、本町農業の大きな柱として取組んで参りました。

この間の農業を取り巻く情勢においては、生産者の高齢化や米価の低迷、燃料の高騰など大変厳しいものであり、そして平成30年には米政策の変更など、大きな転換期を迎えています。

このような中において、花き生産としては「世界一品質の高い花づくり」の目標を掲げるにより、栽培技術の研鑽、規模拡大などを推進し、産地ブランド化を図れるよう取組みを行った結果、市場関係者の方々から非常に高い評価を得ることができ、これもひとえに花き生産に真摯に向き合っており取り組んでいる生産者の皆様や栽培技術の指導などをいただいている関係機関指導員の皆様方の努力の結晶と存じ、心より感謝を申し上げます。

当初計画においては順調に推移してきた花き生産の情勢を踏まえ、「花き販売額10億円を目指して」と目標設定しましたが、栽培戸数の伸び悩みや燃料高騰、土壌病害性連作障害など様々な要因により、中間目標年である平成25年産の実績が3億円となり、当初計画の目標値（平成30年度で10億円）達成が困難であることから、平成27年度に目標値を下方修正（平成30年度で4.2億円）し取り組んで参りました。しかしながら、依然として販売額の増加には至っていない現状です。

水田農業に係る政策転換が進められている中で、花きは水田活用による転換作物としてや周年農業が可能な品目であり、本町農業活性化の柱として今後も推進する必要があります。

すべての品目で優良な花き生産に取り組むべく「第2次庄内町花き振興計画～品質世界一の花づくり～」として策定し、次のステージとして農業所得向上や規模拡大など、未来に繋がる花き生産へのステップアップに取り組んで参りたいと考えます。

終わりになりますが、関係者の今後更なるご協力を賜りますようお願い申しあげまして挨拶といたします。

令和2年3月

庄内町長 原 田 眞 樹

## 目 次

第1	花き生産の現状	1
1	地理的条件	
2	花き栽培の経過	
3	本町花き生産の推移	2
(1)	花き栽培戸数	
(2)	作付面積	
(3)	主要品目の栽培農家数・経営規模	
(4)	販売状況（農協系統出荷）	3
(5)	生産組織	
(6)	庄内町種苗センター利用状況	4
(7)	補助事業の活用状況	
4	課題と総括	5
(1)	庄内町花き振興計画（平成20年3月策定）の実績	
(2)	現 状（目標未達の要因）	6
(3)	課 題	7
(4)	総 括	
第2	基本方針	8
1	花き生産振興の目標	
2	花き生産振興に関する基本的な考え方	9
第3	目標達成のための重点推進事項	10
1	生産面の対策	
(1)	高品質花きの安定生産の推進	
(2)	長期出荷・規模拡大に向けた省力・省エネ・低コスト栽培の推進	
2	担い手農業者の育成・確保	
3	経営基盤の強化	11
4	庄内町種苗センターの活用	
5	花の需要拡大の推進	
第4	品目別の振興方策	
1	ストック	
2	トルコギキョウ	12
3	きく	
4	その他の施設利用切花	
5	土地利用型切花	
関係資料		
1	庄内町花き取扱高（農協出荷・販売分 平成17年以降）	13
2	庄内町花き振興会 会員数及び取扱高推移	14
3	目標達成のための経営指標	15
4	庄内町種苗センターの概要	21

# 第1 花き生産の現状

## 1 地理的条件

庄内町は、山形県の北西部にあり、庄内平野の南東部から中央にかけて位置し、東西が約 22.2 k m、南北に約 38.9 k m と南北方向に細長く、面積は 249.17 k m<sup>2</sup> を有しています。

土地利用区分の面積は、森林が 15,416 h a (町土全体の 62%) で最も多く、これに農用地が 5,949 h a (同 24%) で続いており、農用地、森林及び河川等の自然的な土地利用が町全体の約 90% を占めています。

気候は、一般に海洋性気候を示しており、比較的温暖ですが、冬期間は南部(月山側)に近づくほど積雪量も多くなり、北西部(日本海側)よりの季節風が激しく、また、春から秋にかけて吹く最上川の渓谷からの東南東の強風は「清川ダシ」として有名で、農作物に被害を与えることもあります。

## 2 花き栽培の経過

昭和 30 年代、旧余目町大和地区で水田裏作による輸出用のチューリップ球根栽培が盛んに行われました。その後、昭和 50 年代に入り農家数人がストックの栽培を始め「庄内ピンク」というブランド名で大ヒットし、「余目のストック」と高い市場評価を得ました。

田植機の普及に伴い、水稻育苗ハウスが多数整備され、育苗後のハウスを活用してストックの作付けが増加しました。昭和 58 年には有志農家によって「余目町花き振興協議会」が設立され、ストックの生産拡大と産地強化、更に新しい花き品目の研究に取り組み、昭和 60 年代に入り、新たに「トルコギキョウ」が導入されました。

平成 5 年には「余目町花き振興協議会」を農家自らが行動する組織としての「余目町花き振興会」へ名称を変更しました。平成 7 年には育苗作業の分業化と生産施設の有効活用を図るため、「余目町種苗等供給施設」を建設し産地拡大を目指しました。平成 8 年 4 月より本格的な稼動に入ると、当初の計画を大幅に上回る受注があり受注制限を行わざるを得ない状況となりました。このことから、よりいっそうの生産拡大を図るため、平成 11 年に施設の増設を行ないました。

旧立川町でも、昭和 56 年に「立川町花卉振興会」が設立され、ストックの栽培に取り組むようになりました。その後、スプレー菊、トルコギキョウなど品目を増やしながら拡大してきました。旧立川町の花き農家も「余目町種苗等供給施設」を利用していましたが、双方の利用者の拡大から思うように種苗が手に入らなくなったことから、種苗センター建設の要望が高まり、平成 11 年に「立川町花き種苗センター利用組合」が設立され、平成 12 年に「立川町種苗センター」が完成しました。施設導入後は作付面積や出荷数量において大幅な伸びを示しました。

平成 17 年 7 月には余目町と立川町が合併し「庄内町」になり、それぞれの種苗センターが「庄内町第 1 種苗センター」、「庄内町第 2 種苗センター」と名称を変更しまし

た。また同年8月には余目町花き振興会と立川町花き種苗センター利用組合が統合し「庄内町花き振興会」が設立されました。

平成23年度には、種苗供給数の増加により、庄内町第2種苗センターの播種・育苗施設及び種子冷蔵庫の増設を行いました。

### 3 本町花き生産の推移

#### (1)花き栽培戸数

本町の特徴である種苗センターが平成7年に余目地域に、平成11年に立川地域に設置されたことにより、平成10年代は増加傾向でしたが、以降は平成21年(164人)をピークに減少傾向が続いています。

(単位：人)

種 類	平成5年	平成10年	平成14年	平成18年	平成25年	平成30年
切花類	139	162	159	152	154	130
鉢 物	1	1	1	1	1	1
合 計	140	163	160	153	155	131

資料：庄内町花き振興会、庄内たがわ農協、余目町農協

#### (2)作付面積

種苗センターによる安定した苗供給、また補助事業の活用などによるハウスや付帯施設等の整備により平成10年代後半から平成20年代にかけて増加傾向でしたが、栽培戸数減少に伴い面積も減少傾向です。

(単位：a)

種 類	平成5年	平成10年	平成14年	平成18年	平成25年	平成30年
切花類	1,117	1,560	1,800	2,084	1,694	1,365
鉢 物	14	14	14	24	24	25
合 計	1,131	1,574	1,814	2,108	1,718	1,390

資料：庄内総合支庁農業技術普及課、庄内たがわ農協、余目町農協

#### (3)主要品目の栽培農家数・経営規模

家族労働力中心の経営体が多く、経営規模拡大が難しい経営体が大半を占めています。

(単位：戸、a)

種 類		平成5年	平成10年	平成14年	平成18年	平成25年	平成30年
ストック	戸数	109	124	116	130	127	104
	面積	447	691	761	950	939	706
トルコギキョウ	戸数	41	78	98	106	98	74
	面積	143	473	627	810	614	373

菊	露地	戸数	22	16	1	13	4	4
		面積	243	150	3	130	33	120
	施設	戸数	21	22	12	7	9	10
		面積	59	129	96	80	57	63
宿根 カスミ草	戸数	8	15	8	10	11	8	
	面積	20	48	26	33	31	21	
ひまわり	戸数	-	-	-	-	-	3	
	面積	-	-	-	-	-	16	
ダリア	戸数	-	-	-	-	-	3	
	面積	-	-	-	-	-	13	
その他 切り花	戸数	-	-	-	-	-	8	
	面積	-	-	-	-	-	53	

※ひまわり、ダリア及びその他切り花は平成30年実績より記載。資料：庄内総合支庁農業技術普及課、庄内たがわ農協、余目町農協

#### (4) 販売状況(農協系統出荷) (上段：販売額 下段：数量)

販売額、出荷数量ともに年々増加していましたが、平成19年(販売額429,668千円・出荷数量4,852,807本)をピークに減少傾向が続いています。特に、トルコギキョウについては、ピーク時(平成19年 販売額186,188千円・出荷数量1,701,759本)に対して、平成30年でそれぞれ約40%、約35%まで大きく減少しています。

また、農協系統出荷のほか産直等を加えると平成30年で販売額約268,000千円となり、産直等が約5%(約13,000千円)を占めています。

(単位：千円、千本)

品目	平成5年	平成10年	平成14年	平成18年	平成25年	平成30年
ストック	58,824	80,153	116,307	137,740	127,977	114,766
				2,119	1,741	1,363
トルコギキョウ	34,248	95,869	127,127	170,565	127,428	77,770
				1,680	1,066	592
菊類	3,681	18,459	21,695	16,148	7,748	9,243
				299	133	161
その他	13,860	44,212	45,939	52,511	40,151	52,917
				675	542	692
合計	110,613	238,693	311,068	376,964	303,304	254,696
				4,773	3,482	2,808

資料：庄内たがわ農協、余目町農協

#### (5) 生産組織

花き生産組織は、農協単位で組織されています。また、両農協の生産者を包括す

る庄内町花き振興会を組織し、栽培技術の向上・品質の平準化に取り組んでいます。  
(平成 31 年 4 月現在)

組 織 名	会 員 数	組織の範囲
庄内町花き振興会	126 名	町全体
庄内たがわ農協花き部会	92 名	庄内たがわ農協新余目・立川両支所管内 余目町農協管内
余目町農業協同組合花き部会	34 名	

## (6) 庄内町種苗センター利用状況

ストックについては、作型の平準化などにより面積、出荷量ともに減少は少なく推移していますが、トルコギキョウは連作障害などによる影響で作付面積が減少し、苗供給量も年々減少しています。対策として、ダリア苗等他の品目の苗供給を進めています。

(単位：本)

品 目	平成 10 年度	平成 14 年度	平成 18 年度	平成 25 年度	平成 30 年度
ストック	1,105,380	2,157,480	2,716,980	2,632,140	2,375,800
トルコギキョウ	1,765,920	2,596,800	2,964,480	2,227,920	1,874,016
菊 類	29,440	317,856	344,372	138,550	149,496
その他	189,200	31,500	20,800	18,860	87,406
ロードフラワー	10,000	40,319	44,000	48,680	45,090
合 計	3,099,940	5,143,955	6,090,632	5,066,150	4,531,808

資料：株式会社庄内町種苗センター

## (7) 補助事業の活用状況

生産面積拡大、品質向上などを目的に、県や町補助事業による支援を行ってきています。最近 10 年程度の補助事業活用状況をみると、県及び町補助を活用した事業（事業費計約 3.1 億円）に対し補助金を計約 2 億円（内訳：県 101 百万円・町 100 百万円）支出しており、それにより約 4 億円近くの効果が生まれています。販売額や出荷数量に比例し、実施主体数や効果額も減少しています。

県及び町補助事業の活用状況（花き関係 ハウス新設及び附帯施設等整備）

(単位：千円)

年 度	区 分	実施 主体数	事業費	補助額		効果額 (増加額)	ハウス 新設(棟)
				県補助	町補助		
H21	県事業	-	-	-	-	-	-
	町事業	13	33,313	11,071	-	11,071	25,266



H22	県事業	1	23,426	17,568	9,760	7,808	48,671	9
	町事業	3	6,467	2,154	-	2,154	9,106	4
H23	県事業	2	28,424	21,316	11,842	9,474	57,229	9
	町事業	0	0	0	-	0	0	0
H24	県事業	2	29,850	22,385	12,436	9,949	44,056	13
	町事業	2	1,882	627	-	627	2,510	2
H25	県事業	1	10,770	8,480	4,711	3,769	48,208	5
	町事業	13	13,224	4,081	-	4,081	40,789	0
H26	県事業	2	48,340	36,253	20,140	16,113	12,348	6
	町事業	9	3,623	1,031	-	1,031	26,518	0
H27	県事業	1	16,664	12,496	6,942	5,554	38,173	4
	町事業	5	959	318	-	318	-709	0
H28	県事業	1	49,304	36,976	20,542	16,434	9,698	14
	町事業	10	8,152	2,384	-	2,384	14,230	3
H29	県事業	1	36,238	24,157	15,098	9,059	21,413	13
	町事業	1	250	62	-	62	-154	0
H30	県事業	0	0	0	0	0	0	0
	町事業	2	1,170	291	-	291	-533	1
計	県事業	11	243,016	179,631	101,471	78,160	279,796	73
	町事業	58	69,040	22,019	-	22,019	117,023	27
	計	69	312,056	201,650	101,471	100,179	396,819	100

資料：農林課

※県及び町事業について

県事業 H22～H24：山形県活力ある園芸産地創出支援事業

H25～H28：山形県戦略的園芸産地拡大支援事業

H29～：園芸大国やまがた産地育成支援事業

町事業 H21～H24：庄内町園芸産地拡大強化支援事業

H25～：庄内町農業本気やる気プロジェクト支援事業

※事業費等金額について、同一事業者が複数回実施した場合は初年度に合算し計上。

※効果額は、各事業の実施状況報告に基づき、報告年における「基準年に対する各年生産額・販売額増加額の計」より算出している。

## 4 課題と総括

### (1) 庄内町花き振興計画(平成20年3月策定)の実績

本町における花き生産振興の目標設定については平成20年3月に策定した「庄内町花き振興計画－花き販売額10億円を目指して－」により次の目標を設定し、平成28年3月には、現状に合わせた花き振興計画の改訂を行いました。

## ①計 画

○平成 25 年度及び平成 30 年度の目標設定

平成 25 年度 栽培戸数 180 戸 販売額 7 億円 出荷本数 940 万本

平成 30 年度 栽培戸数 215 戸 販売額 10 億円 出荷本数 1,360 万本

平成 30 年度 (H28.3 月一部改訂後)

栽培戸数 215 戸 販売額 4.2 億円 出荷本数 477 万本

## ②実 績

○平成 30 年度の実績

平成 30 年度 栽培戸数 131 戸 販売額 2.5 億円 出荷本数 280 万本

## (2)現 状(目標未達の要因)

計画策定時における本町花きの状況は、水稻を中心とした複合経営での施設園芸作物の生産が順調に伸びていた時期でした。花き生産者から種苗センターに対し、ストックとトルコギキョウを中心とした種苗の注文が年々増加する状況であり、施設増設による優良種苗の供給量増加はじめ、花き販売量増加、出荷期間の拡大による販売額増が重要課題となっていました。市町村合併（平成 17 年）以降の出荷数量ピークを平成 19 年に迎えたあとも、若干の減少はしながら平成 23 年には再び増加となりましたが、翌年以降、ストックとトルコギキョウいずれも減少の一途となっています。そのため、供給量増加への対応という課題を受けて、平成 22、23 年度に実施した国交付金事業（庄内町第 2 種苗センター増設）での設定目標も、未だ達成に至っていない状況です。その背景には、事業実施当時では想定できなかった下記の要因が挙げられます。

### ①土壌病害の被害拡大

トルコギキョウの土壌病害が平成 24 年頃から徐々に問題化してきました。平成 25～26 年ころから庄内地方、とりわけ本町管内で被害が拡大し、大きな課題として捉えられるようになりました。労力が係る割に土壌病害により収穫すらできない状況が続き、トルコギキョウはもとより、花き栽培自体を辞めてしまったり、更には離農する農家もあり、出荷量や販売額が大きく減少してきました。

一方で、県や農協等関係機関の研究指導を得ながら、個々の努力や工夫により、改善傾向の生産者も出てきています。

### ②農家の高齢化・後継者不足

平成 21 年度で 164 名だった町内花き生産者は、平成 30 年度で 131 名まで減少しています（庄内町花き振興会総会資料より）。その背景には、前述の土壌病害による生産性の低下のほか、過疎化による若手花き生産者の減少や高齢化、また、同様に高齢化や後継者不足により田を手放したり委託する水稻農家が増え、複合経営を行う花き栽培農家にそれら多くの水田が集まり受託することで、花き栽培に手が回らず、規模縮小したりやめてしまうケースが発生しています。

### ③災害や異常気象

近年全国規模で発生する異常気象や災害ですが、当地でも多く発生しています。

ストックやトルコギキョウ、その他品目においても、暴風や豪雪によるハウス損壊、豪雨によるほ場冠水、また異常高温による生育不良などにより、生産量減少につながっています。

④生産及び流通コストの高騰

燃料などの生産コストや流通コストの高騰により冬季栽培や規模拡大を控えるなど、生産量減少につながっています。

### (3)課題

①産地拡大と生産者数の増加

現在の出荷量、販売額を拡大するためには、新規生産者や後継者の確保と育成が必要です。また既存生産者においては、面積拡大を推進していくほか、作業の効率化、労働力の確保などの必要があります。

②生産性及び品質向上

近年の気象変動の影響により品質低下や需要期に出荷できないといった事例が発生していることから、高品質安定出荷を図るための開花調節技術や環境制御技術等の導入が必要となっています。また、本町の主力品目であるトルコギキョウにおいて、土壌病害等の発生により生産性が低下しているため、土壌病害対策の徹底による出荷率の向上が必要です。

③知名度・PRとブランド化

全国的にも産出額上位にある本県のストックとトルコギキョウで、その中でも特に主産地とされる庄内町ですが、その知名度の向上を更に高めていくとともに、厳しい産地間競争に打ち勝つためにも庄内町産花きのブランド化が必要です。

④施設の活用（庄内町種苗センター）

庄内町種苗センターの施設の老朽化も進んでいます。屋根面張替等は段階的に修繕工事を行っていますが、ベンチ、その他施設設備の老朽化に伴う修繕が追いついていない状況です。また、平成23年度の第2種苗センター増設など、施設の機能強化も図ってきましたが、町内花き生産者の減少によりその効果を十分に発揮しきれないため、農協や関係機関との連携により花き栽培を推進し、利用拡大と機能を最大限有効活用することにより、一層の花き振興を図っていくことが必要です。

⑤行政による支援

国や県、町補助金により産地拡大や生産性向上のための支援を行って来ていますが、事業主体への効果は生まれているものの、産地全体としての生産量や販売額増加に必ずしもつながっていないため、より効果的な補助事業等各種支援の工夫と実施が必要です。

### (4)総括

農業を取り巻く状況は依然厳しく、特に町の農業生産額の約7割を占める米については、平成30年からの政策転換や農地集積化など課題も多く、複合経営の推進が不可欠であります。平成20年3月策定「庄内町花き振興計画」の目標未達成という現

状と、農業情勢、近年多発する異常気象、病害等本町を取り巻く課題への対策を踏まえ、今後の花き生産における第2次振興計画を策定し、新たな目標設定のもと町や関係機関が一体となり、本町花き生産の持続的発展に向けた取り組みを行う必要があります。

## 第2 基本方針

### 1 花き生産振興の目標

#### ～高所得を得られる花き経営～

本町の花き生産は平成30年では延べ栽培面積13.9ha、農協系統販売額2.5億円であり、平成28年3月改訂の花き振興計画の目標にとどかないことから、ここ数年のピーク時（平成19年）の数値や現状を考慮しながら目標を設定するものです。

「世界一品質の高い花づくり」を掲げ、安定生産と品質向上によって収量・高単価を確保します。

#### 【取組目標（平成30年度実績）⇒（令和8年度）】

- 販売目標額 2.5億円 ⇒ 4.6億円
- 出荷本数 280万本 ⇒ 488万本
- 花き栽培農家数 H30/131戸 (R1/126戸) ⇒ 138戸

### 目標値

#### (1) 花き栽培農家数

(単位：戸)

種類	平成30年 (実績)	令和元年 (実績)	令和5年 (目標)	令和8年 (目標)
切花類	130	125	131	137
鉢物	1	1	1	1
合計	131	126	132	138

#### (2) 品目別生産量・販売額

(単位：千本、千円)

品目	平成30年(実績)		令和5年(目標)		令和8年(目標)	
	生産量	販売額 (平均単価)	生産量	販売額	生産量	販売額
ストック	1,363	114,766 (84)	2,440	204,960	2,789	234,726
	2,389	182,840				
ギョウワユ	592	77,770 (131)	1,060	138,860	1,211	158,641
	1,410	169,221				
菊類	165	11,048 (67)	166	11,122	180	12,060
	199	13,188				

その他	687	51,112 (74)	693	51,282	700	51,800
	772	54,600				
合計	2,807	254,696	4,359	406,224	4,880	457,227
	4,770	419,849				

※平成30年実績の下段は前計画の目標値

## 2 花き生産振興に関する基本的な考え方 ～選ばれる産地を目指して～

### 基本方針

#### ①産地拡大と生産者数の確保

現在の出荷量を維持・拡大するために、今後の「花の町」を担う、意欲ある新規生産者や後継者の確保と育成を推進します。

既存生産者においては、新規ハウス整備や空きハウス活用などによる面積拡大を推進するほか、ハウス団地化などに対する生産者のニーズを把握し、必要に応じて検討・推進していきます。「花き試験圃場導入事業」実施により、生産者へのトルコギキョウ新品種導入への機会を創出し、花き栽培農家数の増加や面積拡大、所得の増加へとつなげていきます。

また、平成22、23年度に実施した国交付金事業（庄内町第2種苗センター増設）の目標が未達成（ストック及びトルコギキョウの販売量増加率 36.69%）であり、達成に向け引き続き生産拡大を推進していきます。

#### ②生産性及び品質向上

「世界一品質の高い花づくり」の引き続き推進していくために、高品質安定出荷を図るための開花調節技術や環境制御技術等の導入を推進します。また本町の気象条件に適応した生産性の高い品種の選定や、トルコギキョウやストックなどの主力品目の出荷量増加につながるよう、採花率低下の要因となっている土壌病害対策（土壌消毒、輪作体系など）の推進を、県や農協等関係機関の指導の下、推進していきます。

#### ③知名度・PRとブランド化

全国的にも産出額上位にある本県のストックとトルコギキョウですが、その中でも特に主産地とされる庄内町の知名度を更に高められるよう、生産者、農協、行政等関係機関で連携し、消費者に対しての積極的なPR活動を行っていきます。

また、育苗作業の分業化による高品質苗の安定供給を実現する本町の種苗センターについてもPRを推進し、生産者と行政のチームワークでの「花の町」づくりを推進していきます。

#### ④施設の活用（庄内町種苗センター）

本町花き生産における大きな特徴の一つである、庄内町第1種苗センター、庄内町第2種苗センターと2つある種苗等供給施設の機能を最大限に活用できるように

推進します。施設の維持修繕や機能増強を図りながら、年間を通して高品質な苗を供給できるよう、指定管理者と連携し推進していきます。また施設運営の基盤強化を目的に、他農協等町外利用者の拡大も推進します。

#### ⑤行政による支援

国や県の補助制度を活用するとともに、より効果的な事業が展開できるような補助制度を構築していきます。

また、生産や流通等における花き生産者ニーズの把握に努め、補助事業による施設整備や機械導入等ハード面のみならず、需要・消費拡大につながる施策等ソフト面での支援を行い、花き振興を推進します。

#### ⑥需要拡大の推進

庄内町花き振興会や農協と連携し、フラワーショーの実施や公共施設及び学校等への庄内町産花き展示により、PRに取り組みます。また、SNSを活用して庄内町産花きをより広く町内外へ周知していくほか、小中学生を対象としたフラワーアレンジメント教室などの開催により、花育活動として消費者の底辺拡大に努めていきます。

本計画により

庄内町ブランドとして『選ばれる産地』を目指して生産者・関係機関が一体となって取り組みます。

## 第3 目標達成のための重点推進事項

### 1 生産面の対策

#### (1)高品質花きの安定生産の推進

- ・生産技術水準の向上を目指します。
- ・鮮度・日持ち性に重点をおいた栽培技術、出荷調整を普及します。

#### (2)長期出荷・規模拡大に向けた省力・省エネ・低コスト栽培の推進

- ・実情に即した省力・省エネ・低コスト栽培の導入を推進します。
- ・労働時間の削減や作業効率化による労力負担の軽減に向けた機械化を推進します。
- ・周年化が可能な施設型複合経営を推進します。

### 2 担い手農業者の育成・確保

- ・意欲ある新たな担い手の確保・育成を積極的に推進します。
- ・経営感覚の優れた経営体の育成と法人化支援を行います。

- ・花き試験ほ場導入事業によりトルコギキョウ生産者の増加、面積拡大を推進します。
- ・庄内町花き振興会や農協との連携により、新規就農者の仲間づくりや情報交換の場を創出し、就農を支援します。

### 3 経営基盤の強化

- ・稲作との複合化による経営の多角化を推進します。
- ・経営規模の拡大を図るため、ほ場整備の活用やハウスの団地化の支援を推進します。
- ・労働力の確保を図るためヘルパー制度や職業紹介所等の労働力確保、作業請負体制の整備を推進します。
- ・先進的な栽培技術や開花調整技術・施設内環境制御技術の検証・導入、附帯施設等の整備を支援し、施設の利用率を高め花き生産の収益性向上を推進します。
- ・市場のニーズに応じた優良品目、品種の積極的な導入を推進します。
- ・空きハウスの現状を把握し、活用を図ります。

### 4 庄内町種苗センターの活用

- ・育苗と栽培の分業化を図り育苗に要する施設や労働力を品質向上に供することができることから庄内町種苗センターの運営を継続します。
- ・関係機関との連携を一層深めるとともに、町内のみならず町外への供給も積極的に進めながら、優良種苗の生産・供給に努め出荷率向上や品質の均一化に繋がります。
- ・産地戦略の拠点として産地情報の把握や市場等への出荷情報の提供に努めます。

### 5 花の需要拡大の推進

- ・本町花きの、全国ブランドとして確立を目指す取り組みを推進します。
- ・産地間競争に打ち勝ち、消費者や実需者のニーズに合った生産体制強化に努めます。
- ・庄内町産花きのふるさと納税返礼品への採用など、「花のまち」を地域内外にPRするとともに積極的に地元産直施設等での販売に努めます。

## 第4 品目別の振興方策

花き生産においては市場ニーズにより販売額への影響が大きいことから、適正な集出荷体制を構築し品種や出荷時期の情報収集に努めます。県や農協等関係機関との連携による各品目別の振興方策については、次のとおりです。

### 1 ストック

- ・種苗センターの利用促進とともに、加温ハウス等の施設整備や直播栽培等省力技術

の導入を推進し、作期の拡大と面積拡大を図るとともに、新規生産者の掘り起こしを推進します。

- ・出荷時期の安定化、品質向上を図るため、生育に応じた温度管理技術の普及や開花調節技術の適切な実施を推進します。
- ・生産性の高い品種の導入を推進します。
- ・計画出荷に向けた適期播種を推進します。

## 2 トルコギキョウ

- ・作期の拡大を図るため、開花調節技術の普及を推進します。
- ・土壌病害への対応として、土壌消毒の適正な実施、適正な施肥管理技術の普及を推進し、出荷率向上を目指します。
- ・市場や実需者からの夏秋出し産地としての要望に応えるため、秋出し（9～11月）作型や新品種の導入など、安定出荷体制の整備を推進します。
- ・「花の産地」としてのブランド化に向けた取組みの一つとして、新品種の試験圃場を設置し、生産者の新たなチャレンジのきっかけを作るとともに、花き栽培農家の増加、面積拡大、更に所得の増加へとつなげていきます。

## 3 きく

- ・需要が大きい品目であることから、新規生産者の掘り起こしを推進し、育成します。
- ・スプレー菊は消費者ニーズを的確に把握しながら品種更新と作型の組み合わせによる施設の利用率を高めます。
- ・輪菊、小菊は作型の組み合わせと施設活用を含めながら作期拡大と経営面積の拡大を図ります。
- ・労力を軽減するため、種苗センターの利用と選花機等の機材整備を推進します。

## 4 その他の施設利用切花

- ・かすみ草、ひまわり、ダリア、スターチスその他の切り花については、規格統一や品質向上に向けた技術向上を図ります。
- ・他品目と作型を組み合わせる施設の利用率向上を推進します。

## 5 土地利用型切花

- ・啓翁桜などの枝もの花木、露地栽培花きの小菊やアスターなどについても、花き栽培面積の拡大につながる品目として、検討・推進します。



## 関係資料

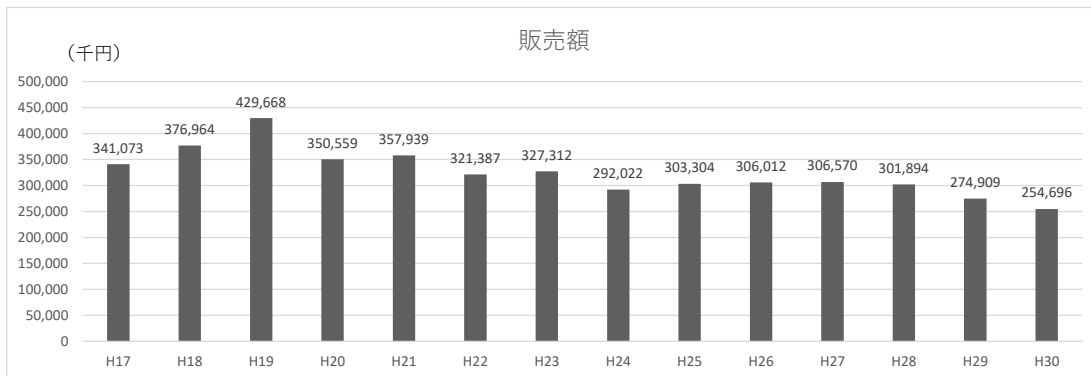
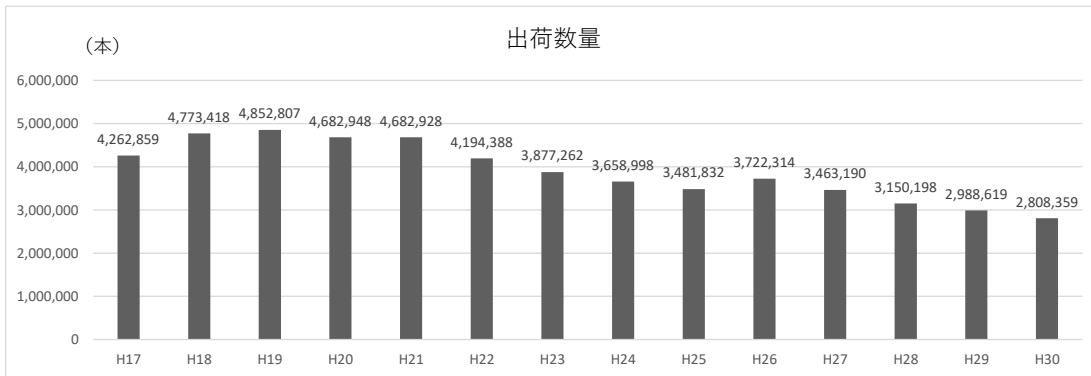
### 1 庄内町花き取扱高(農協出荷・販売分 平成17年以降)

(単位：本、千円)

	H17実績		H18実績		H19実績		H20実績		H21実績		H22実績		H23実績	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ストック	1,775,710	148,315	2,118,652	137,740	2,006,572	166,237	2,003,879	136,210	1,998,832	123,077	1,767,323	125,311	1,677,788	134,034
スプレー菊	329,040	16,636	294,649	15,986	400,000	21,073	297,980	14,865	244,050	12,848	500,480	36,858	177,335	8,605
輪菊	2,010	170	820	57	12,330	588	2,360	139	11,440	357	5,540	234	4,990	240
小菊	0	0	3,972	105	0	0	31,060	1,082	44,009	1,582	29,780	1,075	11,666	200
トルコキョウ	1,458,804	132,387	1,680,348	170,565	1,701,759	186,188	1,597,134	147,622	1,612,826	165,359	1,185,642	110,197	1,305,015	134,278
アルストロメリア	17,150	758	13,080	709	20,300	854	18,630	650	5,715	251	3,480	127	6,690	241
カーネーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カスミ草	103,032	5,692	108,580	5,837	108,330	6,468	103,596	6,373	116,420	6,552	65,105	3,156	75,759	4,885
スターチス	44,370	1,294	46,150	1,754	56,320	1,588	52,510	1,250	21,120	863	19,475	645	25,365	792
バラ	330,860	24,764	406,635	33,393	392,641	33,986	399,141	30,071	466,481	34,198	448,117	29,749	423,201	30,694
ひまわり	84,275	2,701	48,830	2,112	93,155	3,238	95,907	3,097	84,549	2,962	96,100	3,832	102,993	3,990
チュールブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
花木	1,052	218	890	176	1,790	304	1,260	185	18,290	289	1,498	224	0	0
その他	116,556	8,138	50,812	8,530	59,610	9,144	79,491	9,015	59,196	9,601	71,848	9,979	66,460	9,353
計	4,262,859	341,073	4,773,418	376,964	4,852,807	429,668	4,682,948	350,559	4,682,928	357,939	4,194,388	321,387	3,877,262	327,312

	H24実績		H25実績		H26実績		H27実績		H28実績		H29実績		H30実績	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ストック	1,562,513	128,048	1,740,840	127,977	1,811,105	120,992	1,687,764	122,931	1,434,003	130,123	1,449,205	127,879	1,363,119	114,766
スプレー菊	110,570	5,614	121,320	7,006	159,024	8,937	167,191	9,771	154,930	9,440	177,608	8,408	148,563	8,607
輪菊	0	0	7,520	644	7,020	448	3,650	195	1,909	108	840	53	12,530	636
小菊	12,805	351	4,040	98	4,420	133	1,460	42	90	3	0	0	0	0
トルコキョウ	1,335,103	116,894	1,065,938	127,428	1,110,338	130,297	967,639	123,493	832,959	107,210	661,683	84,697	592,332	77,770
アルストロメリア	4,320	142	95	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カーネーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,900	224
カスミ草	88,416	4,890	74,778	5,335	93,411	5,121	88,310	6,843	76,879	5,762	82,795	6,622	64,492	4,520
スターチス	31,420	1,101	24,990	971	22,640	827	17,950	886	12,140	596	15,010	550	12,510	421
バラ	323,701	22,065	281,032	20,810	333,043	26,519	356,685	28,949	434,270	31,972	398,200	27,729	430,740	29,730
ひまわり	96,017	3,120	73,093	2,938	71,229	2,568	69,391	3,121	65,439	2,640	40,636	1,673	34,635	1,474
チュールブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
花木	0	0	40	3	0	0	0	0	55	10	39,100	2,343	5,570	331
その他	94,133	9,797	88,146	10,090	110,084	10,170	103,150	10,339	137,524	14,030	123,542	14,955	140,968	16,217
計	3,658,998	292,022	3,481,832	303,304	3,722,314	306,012	3,463,190	306,570	3,150,198	301,894	2,988,619	274,909	2,808,359	254,696

資料：庄内たがわ農協、余目町農協



## 2 庄内町花き振興会 会員数及び取扱高推移

(単位：人)

J A	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	増減率 (対H21)
庄内 たがわ	130	127	121	118	118	112	110	105	100	96	92	-29.2%
余目町	34	37	37	37	37	37	35	35	36	35	34	0.0%
計	164	164	158	155	155	149	145	140	136	131	126	-23.2%
系統出荷 花き販売 額(百万 円)	358	321	327	292	303	306	307	302	275	255	-	-28.8%
系統出荷 花き数量 (千本)	4,683	4,194	3,877	3,659	3,482	3,722	3,463	3,150	2,989	2,808	-	-40.0%

資料：庄内町花き振興会、庄内たがわ農協、余目町農協

### 3 目標達成のための経営指標

例① 農地5haの例 (粗収益16,301千円・所得4,757千円)												
経営類型	【庄内町】水稲3ha 庄内 水稲+大豆+トルコぎきょう+ストック											
適用地域	庄内 平坦地域											
1 経営の 前提条件	(1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)]											
2 技術上の 留意点、導 入すべき 新技術等	(1)水稲作付けは、はえぬき:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。 (2)機械は共同利用とし、コスト低減を図る。 (3)園芸ハウスは、水稲とトルコぎきょう、ストックで2回転活用しコスト削減を図る。 (4)トルコぎきょう抑制栽培の前作に他品目の組み合わせが必要											
3 経営の 指標 (全体の 指標)	経営規模 (ha)	作目構成・規模 (ha)	生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体)						
	水田	水稲 3.0 大豆 1.5	17,760 2,550	3,582 1,474	726 475	600 113						
	(自作地 ) (借地 )	ストック 0.20 トルコぎきょう 無加温 0.20 抑制 0.07	48,000 48,000 15,840	3,640 5,520 2,086	1,086 1,752 718	1,221 1,722 598						
	計	5.0		16,301	4,757	4,254 (雇用含む)						
4 土地利用方法(作付体系)												
作物・ 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
水稲				○ は種	△ 田植				■ 収穫			
大豆					○ は種					■ 収穫		
施設利用 水稲育苗				○ は種	△ 田植							
トルコぎきょう 2月定植 ストック		△								△		
トルコぎきょう 2月定植 ストック 秋出し		△								△		
トルコぎきょう 3月定植 ストック			△							△		
トルコぎきょう 4月定植 ストック				△						△		
トルコぎきょう 5月定植 ストック 年末出し					△					△		
トルコぎきょう 6月定植 ストック 一部加温										△		
トルコぎきょう 抑制										△		
トルコぎきょう 抑制										△		

△:定植 ■■:収穫

**例② 農地5haの例** (粗収益14,001千円・所得3,885千円)

経営類型 **【庄内町】水稲3ha 庄内 水稲+大豆+スプレーぎく**

適用地域 **庄内 平坦地域**

1 経営の前提条件  
 (1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。  
 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。  
 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。  
 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)]  
 (4)スプレーぎく用施設・機械は1/3補助事業活用

2 技術上の留意点、導入すべき新技術等  
 (1)水稲作付けは、はえぬき:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。  
 (2)スプレーぎくの作型を組み合わせ、効率的な労働配分を図る。  
 (3)園芸ハウスは、水稲とスプレーぎく、スプレーぎくで2回転活用しコスト削減を図る。  
 (4)機械は共同利用とし、コスト低減を図る。

3 経営の指標 (全体の指標)	経営規模 (ha)	作目構成・規模 (ha)	生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体) (うち雇用)	
	水田		水稲 3.0	17,700	3,730	381	600
(自作地)		大豆 1.5	2,550	1,474	358	113	0
(借地)		スプレーぎく					
		シェード無加温 0.2	72,000	4,360	1,540	1,636	530
		シェード 0.07	25,200	1,512	514	583	0
		電照 0.13	47,880	2,926	1,092	1,051	0
	計	4.9		14,001	3,885	3,982	530

4 土地利用方法(作付体系)

作物・作型	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水稲							○			△														
大豆							は種			田植														
施設利用 水稲育苗							○			△														
スプレーぎく																								
9月上旬出し													♂											
5月上旬出し				♂																				
10月上旬出し																♂								
6月上旬出し							♂																	
10月中旬出し																♂								
7月上旬出し							♂																	
11月中旬出し																♂								
8月上旬出し										♂														
11月下旬出し																♂								
7月下旬出し										♂														
12月上旬出し																♂								
8月上旬出し										♂														
12月中旬出し																♂								

摘要 ○:は種 △:定植 ■:収穫 ♂:直挿

例③ 農地10haの例 (粗収益18,464千円・所得5,744千円)												
経営類型	【庄内町】水稲6ha 庄内 水稲+大豆+トルコぎきょう+ストック											
適用地域	庄内 平坦地域											
1 経営の 前提条件	(1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)]											
2 技術上の 留意点、導 入すべき 新技術等	(1)水稲作付けは、はえぬき:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。 (2)機械は共同利用とし、コスト低減を図る。 (3)園芸ハウスは、水稲とトルコぎきょう、ストックで2回転活用しコスト削減を図る。											
3 経営の 指標 (全体の 指標)	経営規模 (ha)	作目構成・規模 (ha)	生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体)						
	水田	水稲 6.0 大豆 3.0	35,520 5,100	7,163 2,948	2,082 1,066	1,200 225						
	(自作地 ) (借地 )	ストック 0.20 トルコぎきょう 無加温 0.13 抑制 0.03	48,000 31,920 7,920	3,640 3,671 1,043	1,139 1,196 261	1,221 1,145 299						
	計	9.4		18,464	5,744	4,090 雇用含む)						
4 土地利用方法(作付体系)												
作物・ 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
水稲				○ は種	△ 田植				■			
大豆					○ は種				■			
施設利用 水稲育苗				○ は種	△ 田植							
ストック	水稲育苗 △-----■											
ストック 年末出し	■ ■ ■ 水稲育苗 △-----■ ■ ■ ■ ■ 保温    ←保温→											
トルコぎきょう 2月定植 ストック 秋出し	△-----■ ■ ■ ■ ■  ←保温→  △-----■ ■ ■ ■ ■											
トルコぎきょう 3月定植 ストック	△-----■ ■ ■ ■ ■ △-----■ ■ ■ ■ ■											
トルコぎきょう 4月定植 ストック	△-----■ ■ ■ ■ ■ △-----■ ■ ■ ■ ■											
トルコぎきょう 5月定植 ストック 年末出し	■ ■ ■ △-----■ ■ ■ ■ ■ 保温    ←保温→											
トルコぎきょう 抑制	△-----■ ■ ■ ■ ■  ←シェード→											

△:定植 ■■:収穫

例④ 農地10haの例 (粗収益17,793千円・所得5,346千円)													
経営類型 【庄内町】水稲6ha 庄内 水稲+大豆+スプレーぎく													
適用地域 庄内 平坦地域													
1 経営の 前提条件	(1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)] (4)スプレーぎく用施設・機械は1/3補助事業活用												
2 技術上の 留意点、導 入すべき 新技術等	(1)水稲作付けは、はえぬぎ:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。 (2)スプレーぎくの作型を組み合わせ、効率的な労働配分を図る。 (3)園芸ハウスは、水稲とスプレーぎく、スプレーぎくで2回転活用しコスト削減を図る。 (4)機械は共同利用とし、コスト低減を図る。												
3 経営の 指標 (全体の 指標)	経営規模 (ha)	作目構成・規模 (ha)	生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体) (うち雇用)							
	水田  (自作地 ) (借地 )	水稲 6.0	35,400	7,459	1,402	1,200	0						
		大豆 4.5	7,650	4,421	1,748	338	0						
		スプレーぎく			3,712	1,430	1,391	461					
		シェード無加温	0.17	61,200									
		シェード	0.00	0	0	0	0	0					
	電照	0.10	36,000	2,200	765	790	0						
計	10.8		17,793	5,346	3,718	461							
4 土地利用方法(作付体系)													
作物・ 作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
水稲				○ は種	△ 田植					■ 収穫			
大豆					○ は種					■ 収穫			
施設利用 水稲育苗 2棟				○ は種	△ 田植								
スプレーぎく 9月上旬出し							♂  ←電照→		■  ←シェード→				
10月中旬出し					水稲育苗		♂  ←電照→		■  ←シェード→				
7月上旬出し				♂  ←電照→									
11月中旬出し									♂  ←電照→		■  ←暖房→		
8月上旬出し					♂  ←電照→			■  ←シェード→					
11月下旬出し									♂  ←電照→		■  ←暖房→		
7月下旬出し					♂  ←電照→			■  ←シェード→					
12月上旬出し									♂  ←電照→		■  ←暖房→		

摘要 ○:は種 △:定植 ■:収穫 ♂:直挿

例⑤ 農地25haの例 (粗収益29,573千円・所得8,629千円)																											
経営類型 【庄内町】水稲15ha 庄内 水稲+大豆+ストック																											
適用地域 庄内 平坦地域																											
1 経営の 前提条件	(1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)]																										
2 技術上の 留意点、導 入すべき 新技術等	(1)水稲作付けは、はえぬき:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。 (2)園芸ハウスは、水稲とストックで2回転活用しコスト削減を図る。																										
3 経営の 指標 (全体の 指標)	経営規模 (ha)	作目構成・規模 (ha)		生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体)																				
	水田	水稲	15.0	88,800	17,908	4,269	3,000																				
	(自作地)	大豆	10.0	17,000	9,825	3,904	750																				
	(借地)	ストック	0.10	24,000	1,840	456	611																				
		トルコぎきょう																									
	無加温	0.00	0	0	0	0																					
	抑制	0.00	0	0	0	0																					
	計	25.1			29,573	8,629	4,361 雇用含む)																				
4 土地利用方法(作付体系)																											
作物・ 作型	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水稲							○			△																	
大豆							は種			田植								収穫									
施設利用 水稲育苗							○			△																	
							は種			田植																	
ストック	水稲育苗												△-----■														
ストック	水稲育苗												△-----■														
ストック	■		水稲育苗										△-----■														
	保温																								←保温→		

△:定植 ■:収穫

例⑥ 農地25haの例 (粗収益30,751千円・所得9,095千円)																											
経営類型 【庄内町】水稲15ha 庄内 水稲+大豆+スプレーぎく																											
適用地域 庄内 平坦地域																											
1 経営の 前提条件	(1)米、大豆は共同乾燥調製施設等に委託する。 (2)大豆は、産地交付金の団地化加算(1ha以上)15,000円/10aを前提とする。 (3)施設花きは、産地交付金40,000円/10aを前提とする。 [基幹的農業従事者2人、補助的農業従事者(ピーク時)] (4)スプレーぎく用施設・機械は1/3補助事業活用																										
2 技術上の 留意点、導 入すべき 新技術等	(1)水稲作付けは、はえぬぎ:つや姫:ひとめぼれを6:1:1とし、収量の確保と良食味・高品質米生産を図る。 (2)スプレーぎくの作型を組み合わせ、効率的な労働配分を図る。 (3)園芸ハウスは、水稲とスプレーぎく、スプレーぎくで2回転活用しコスト削減を図る。																										
3 経営の 指標 (全体の 指標)	経営規模 (ha)		作目構成・規模 (ha)		生産量 (kg, 本)	粗収益 (千円)	所得 (千円)	労働時間(時間) (全体) (うち雇用)																			
	水田		水稲	15.0	88,500	18,648	4,497	3,000	442																		
	(自作地)		大豆	10.0	17,000	9,825	3,778	750	0																		
	(借地)		スプレーぎく			1,552	520	573	273																		
			シェード無加温	0.07	25,200																						
			シェード	0.00	0	0	0	0	0																		
		電照	0.03	11,880	726	300	261	0																			
計			25.1		30,751	9,095	4,583	715																			
4 土地利用方法(作付体系)																											
作物・ 作型	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
水稲							○			△																	
大豆							は種			田植								収穫									
施設利用 水稲育苗 3棟							○			△																	
スプレーぎく																											
9月上旬出し													♂					■ ■									
													←電照→														
													←シェード→														
10月上旬出し													♂					■ ■									
													←電照→														
													←シェード→														
11月下旬出し																		♂									
													←電照→														
													←暖房→														

摘要 ○:は種 △:定植 ■:収穫 ♂:直挿



## 4 庄内町種苗センターの概要

### 庄内町第1種苗センター

所在地 庄内町南野字十八軒 21-8

平成7年度建設分

施設概要	管理棟	木造平屋建	49.69	m <sup>2</sup>
	播種・育苗ハウス	軽量鉄骨硬質フィルムハウス	1,200	m <sup>2</sup>
	親株養生ハウス	軽量鉄骨硬質フィルムハウス	324	m <sup>2</sup>
	夜冷育苗ハウス	パイプハウス	108	m <sup>2</sup>

附帯設備 複合環境制御・自走灌水・暖房設備・夜冷装置  
移動ベンチ 80 台 (40 トレー/ベンチ 計 3,200 トレー)・播種ライン一式  
プラグトレー洗浄機・土壌消毒機・発芽室 (2 室)

総事業費 136,230,890 円

補助事業名 農業生産体制強化総合推進対策事業

平成11年度建設分

施設概要	播種・育苗ハウス	軽量鉄骨硬質フィルム	900	m <sup>2</sup>
	雪氷庫	コルゲートアーチドーム方式	132	m <sup>2</sup>
		(体積 583 m <sup>3</sup> ・最大雪氷量 250 t)		

附帯設備 複合環境制御・自走灌水装置・暖房設備・冷水循環ポンプ 2 台  
移動ベンチ 72 台 (40 トレー/ベンチ 計 2,880 トレー)

総事業費 100,128,000 円

補助事業名 農業生産体制強化総合推進対策事業

### 庄内町第2種苗センター

所在地 庄内町狩川字西田 123-6

平成11年度建設分

施設概要	管理棟	木造平屋建	49.69	m <sup>2</sup>
	播種・育苗ハウス	軽量鉄骨硬質フィルムハウス	1,092	m <sup>2</sup>
	播種・育苗ハウス	軽量鉄骨硬質フィルムハウス	1,008	m <sup>2</sup>

附帯設備 複合環境制御・自走灌水装置・暖房設備 (温風設備・温湯設備)・  
移動ベンチ 78 台 (40 トレー/ベンチ 計 3,120 トレー)・播種ライン

予冷庫 (2 室)・プラグトレー洗浄機・土壌消毒機

親株養生隔離ベッド・自走式管理機・静電噴霧機

総事業費 142,700,000 円

補助事業名 地域連携体制支援施設整備事業

平成23年度建設分

施設概要	播種・育苗ハウス	924	m <sup>2</sup>
	播種・育苗ハウス	840	m <sup>2</sup>
	種子冷蔵庫	142.05	m <sup>2</sup>

附帯設備 複合環境制御・自走灌水装置・暖房設備 (温風設備・温湯設備)

移動ベンチ 112 台 (40 トレー/ベンチ 計 4,480 トレー)・播種ライン

総事業費 250,950,000 円

補助事業名 農村漁村活性化プロジェクト支援交付金事業